

小麦新品種「びわほなみ」の普及拡大に向けた取組

対象者 管内小麦生産者群

【普及活動のねらい】

甲賀管内では、令和5年秋播種から、主要作付品種である「農林61号」や「ファイバースノウ」から「びわほなみ」へ品種転換が行われます。この品種の栽培のポイントは、秋播性が低く、早播きすると凍霜害の心配があるため播種時期を遅らせることと、赤かび病に感染するリスクが高いため、2回の適期防除が必要です。また、穂肥の施用を莖立期（2月上中旬）に行うことで、増収が期待できます。

以上のポイントをふまえ、安定的な品質・収量を確保するためには、従来の栽培方法と異なる「びわほなみ」の品種特性に合わせた栽培管理が必要であり、その実践に向けた支援を行いました。

【普及活動の内容】

研修会等の開催や情報提供による技術支援

5月に、びわほなみ試作ほ場3か所で、収穫前に現地研修会を開催し、成熟期の草姿や品種の特徴について説明を行いました。10月には、この秋播種からの本格的栽培を前に、栽培のポイントや注意点について栽培研修会を開催しました。

また、栽培暦を作成し、びわほなみ栽培生産者に配布し、作付体系の理解を促しました。

増収に向けた実証ほの設置

大規模農業法人と集落営農法人のほ場に、莖立期の穂肥による増収効果を目的とした実証ほを設置しました。2月には、この実証ほで穂肥の現地研修会を開催し、増収に向けた莖立期の穂肥の実施を促しました。

【普及活動の成果】

研修会の開催や栽培暦の配布を行った結果、従来の10月下旬播種から11月上中旬播種への播種時期の変更や、増収に向けた莖立期の穂肥の実施など、品種特性に合わせた栽培管理が実施されました。引き続き、赤かび病の2回の防除や適期収穫に向けて支援を行っていきます。



現地研修会風景



播種風景(実証ほの設置)

◎対象者の意見

研修会等を通じて、「びわほなみ」栽培技術について生産者に周知できた。引き続き、技術支援をお願いしたい。(JA こうか担当者 N氏)